

区政のごとくをきく

一般質問要旨

日暮里のまちづくりと観光資源として都電軌道敷の整備・活用を問う



小坂 眞三 (自民党)

問 日暮里駅に架かる紅葉橋は、集中豪雨の時、階段の上から水が流れ落ちてきて、とても歩けないとの声も聞かれます。架け替えやバリアフリー化が必要と考えるが、現在はどのような状況なのか。

答 年度内に診断結果が判明する。その結果を踏まえ、耐震補強や架け替え等について、具体的な方針をJR東日本とともに検討する。

問 震災に伴う火災の延焼防止などに永久水利の活用は欠かせず、隅田川の河川水の活用とともに地下水の利用は、飲料水や生活用水の確保という観点からも有用性が高い。そこで、隅田川から距離のある明治通りの南側の防災危険箇所化など配慮している。また、長引く景気低迷期を乗り越えた事業者が、将来も区内で発展していくことを期待して実施している。

区民の暮らしと営業を守る施策と第6期高齢者プランを問う



小島 和男 (共産党)

問 高齢者は年金支給が削減され増税に加え、医療や介護の負担も増大している。高齢者の暮らしを支援する経済的給付を行うべき。

答 専ら児童生徒本人が使用するもの、その利益が個人に還元されるため保護者の負担としている。

問 小規模事業者経営力強化支援事業は、手続きの簡素化や継続経営年数の緩和など、より使いやすき事業とするよう求める。

度の高い地域に対しては、どのように永久水利を整備していくのか。

答 隅田川の河川水や地下水を活用する永久水利事業を、今後も区の防災対策の重要な柱の一つとして位置付け、火災危険度や地域バランス等を考慮した上で区内全域に整備を進めていく。明治通りの南側に位置する日暮里地域においても、危険度の高い地域があることから、深井戸による施設整備を積極的に検討する。

問 熊本市、鹿児島市の市電を視察し、軌道敷の芝生の美しさに感動した。芝生は観光資源として活用できると思うがどうか。また、補助90号線の整備に合わせ、町屋簡素化するなど配慮している。また、長引く景気低迷期を乗り越えた事業者が、将来も区内で発展していくことを期待して実施している。

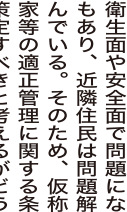
問 熊本市、鹿児島市の市電を視察し、軌道敷の芝生の美しさに感動した。芝生は観光資源として活用できると思うがどうか。また、補助90号線の整備に合わせ、町屋簡素化するなど配慮している。また、長引く景気低迷期を乗り越えた事業者が、将来も区内で発展していくことを期待して実施している。

問 新しい総合事業への移行は、4月から拙速に実施せず、十分な準備・検討期間を確保すること。

答 介護予防訪問介護や介護予防通所介護は、継続してサービスが利用できる。これまでの取り組みを生かし、新たな総合事業も十分に準備し、4月から円滑に取り組みを始める。

問 認知症予防運動の早期発見の検診と認知症予防運動を検討すること。また、認知症コーディネーターの正規職配置やサロン事業の拡大等は一一般計で予算を組むべき。

空き家対策を問う



保坂 正仁 (公明党)

問 区内でも空き家が多くあるが、衛生面や安全面で問題になることもあり、近隣住民は問題解決を望んでいる。そのため、仮称「空き家の適正管理に関する条例」を策定すべきと考えるがどうか。

答 成立した「空き家対策の推進に関する特別措置法」には、より踏み込んだ規定が盛り込まれており、条例制定の必要性を含め、実効性のある対策に鋭意取り組む。

荒川区の防災対策を問う



竹内 明浩 (民主・市民)

問 消防団の拠点となる分団本部の多くは、標準よりも狭い。団員の待機スペースなどのために分団本部施設用地の確保などの支援を積極的に行うべきではないか。

答 区内において、標準より狭い分団本部が多いことは認識しており、消防団等と相談し、改善に向けた取り組みを進めていくのかを問う。

問 活用できる空き家は、仮称「空き家登録制度」を策定し、若い世代に安価で貸し出してはどうか。

答 住宅として提供できる空き家の情報を広く集め、あつ旋できる制度を構築することが重要と考えている。先行自治体の事例を調査研究し、関連部署や不動産業界等からの協力を得ながら検討する。

問 ふれあい館は20館構想のうち、13館が建設されたが、残った7館の地域とはコミュニティの格差が生じていると考える。20館建設の早期実現への決意を問う。

問 用地確保の難しい地域では、町会等の地域団体の意見を十分に聞き、公共施設の再整備や分館避難所開設・運営が可能になるよう支援を強める。

問 災害時のペットの同行避難の際には様々な問題が懸念される。そのため区民全体への周知や、ペット防災リーダーを養成すべきと考えるがどうか。

答 ペット防災に関し、さらなる情報発信等を行う。リーダーの中で他区の事例を参考にし、関係者や専門家の意見も踏まえ検討する。

